

令和4年度 事業報告書
 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで
 特定非営利活動法人 工房・虹と夢

1 事業の成果

2022年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、20、21年度と同じように製品の販売機会がほぼないという厳しい状況下での活動となりました。とくに北海道における感染状況は拡大傾向が収まらず影響が長引きました。このコロナ禍によって地域活動も制限され、虹と夢も丸3年もの間販売の機会や場所がなくなる厳しい状況の下に置かれました。地域との繋がりを大切にしながら活動してきた工房・虹と夢ですが、感染力の強い新型コロナウイルス対策に当たっては、何よりも利用者の安心・安全を第一に工房運営にあたってきました。出勤する前の体温測定、工房内ではマスクの着用や消毒の徹底、換気対策など、利用者・保護者の協力をいただきながら感染予防のための対策に万全を期してきました。本年に入ってからも、函館市内における感染拡大は続き、日乃出の工房内でもさみだれ的に感染者が出る事態となり、感染力の強さをあらためて知らされることとなりました。

*障がい者の自立支援に関する事業

工房・虹と夢は、ひとり一人に対する支援計画と、それに基づいた日常の作業指導・内容を現実にあった形で組み立ててきました。また、利用者それぞれの障がい特性に応じた選択肢や可能性を広げる取り組みを通じ、工房の一員であるとの自覚を共有できるよう努力してきました。

イ) 就労継続支援事業 《工房・虹と夢》

① 自主製品の製造・販売

コロナ禍の影響で、めぐる市などのイベントの多くが制限あるいは中止となりました。

② 受注作業

地域のネットワークを通じて複数の企業からの作業受注や、新たな製品の共同開発などにも取り組み一定の成果を上げることが出来ました。さらに、ものづくりにこだわる本州の会社からの定期的な注文も受けることができ新たな可能性も見え始めました。

③ 販売体験などを通じたコミュニケーション能力の獲得

利用者が直接参加する大切な機会と位置づけている各種販売会は一部を除き中止となり、ほとんど実施することが出来ませんでした。

④ 地域との協力、ネットワークづくり

虹と夢の活動を地域に広げる一環として、地域の様々な人々、団体と協力しながらつくりあげてきた〈めぐる市〉や〈パン&スイーツまつり〉など、各種の催しは本年もコロナ禍のために開催することが出来ませんでした。

また、毎年7月に開催してきた虹と夢まつりも開催することが出来ませんでした。

*研修・啓発に関する事業

イ) 今年度は、養護学校や地域の相談支援センター、福祉大学などからの実修生・見学者、就労体験者の受け入れを実施することができました。

ロ) スタッフのスキルアップ、研修に関する事業

・障がい者の虐待防止・権利擁護のリモート研修や、スタッフ会議などでメディア情報を利用した対策・検討を行ってきました。

ハ) 文化的な取り組みを通じ、ゆたかな情操と社会性の獲得をめざす事業

・3年ぶりに〈李政美コンサート〉を開催することができました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
障害者の自立支援に関する事業	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス就労継続支援B型を行った	通年	函館市 工房・虹と夢	6名	実利用者26名	31,230千円
研修・啓発に関する事業	①養護学校や地域の相談支援センターなどからの実修生・見学者、就労体験者の受け入れ ②会報などを通じた広報活動『虹メール』年4回発行	①通年 ②5月、8月、11月、1月	函館市 工房・虹と夢	6名	①各学校・センター利用者約10名 ②後援会員約200名	187千円

(2) その他の事業

実施しなかった